

# NetBackup™ リリースノート

リリース 10.2

マニュアルバージョン 2

**VERITAS™**

# NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2023-05-16

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2023 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

**Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools)** は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

<b>第 1 章</b>	<b>NetBackup 10.2 について</b> .....	8
	NetBackup 10.2 のリリースについて .....	8
	NetBackup の最新情報について .....	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について .....	9
<b>第 2 章</b>	<b>新機能、拡張機能および変更</b> .....	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について .....	10
	NetBackup 10.2 の新機能、変更点、拡張機能 .....	10
	Veritas 用語の変更点 .....	12
	NetBackup Web UI の改善点 .....	12
	新しい EEB 管理ビュー .....	13
	Veritas Alta Recovery Vault Azure および Azure Government の 構成 .....	13
	NetBackup 10.2 の RESTful API .....	13
	NetBackup 10.2 のサポートの追加および変更点 .....	15
	BMR (Bare Metal Restore) オペレーティングシステムのサポートの 追加 .....	16
	古い認証モデルのサポート終了 .....	16
	正確なライセンスのサポート .....	16
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド .....	17
	NetBackup 10.2 の新しい NetBackup Scale-Out Relational Database .....	17
	NetBackup 10.2 にアップグレードするための前提条件 .....	17
	Linux 環境では、root ユーザーが NetBackup デモンを起動すると きに新しい root 以外のデータベースユーザーが必要 .....	18
	ポート 13787 の新しい接続プール .....	18
	NetBackup 10.2 のインストール後またはこのバージョンへのアップグ レード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新する .....	18
	保存されたクレデンシャルを使用した (ユーザー名またはパスワードへ のアクセス不要) VMware ゲスト VM バックアップからの単一ファ イルリカバリに対する Web UI のサポート .....	20
	デフォルトの VMware 管理者の役割に追加されたクレデンシャル権 限 .....	20

	複数のユニバーサル共有での Oracle Copilot のサポート .....	20
	Snapshot Manager での Azure リカバリポイントの使用 .....	20
	スナップショットバックアップからの単一ファイルリストア .....	21
	弾力性に優れたメディアサーバーが提供するレプリカの自動スケール ング .....	21
	マニュアルの変更 .....	21
<b>第 3 章</b>	<b>操作上の注意事項 .....</b>	<b>22</b>
	NetBackup 10.2 の操作上の注意事項について .....	22
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項 .....	23
	Windows で NetBackup 10.2 のアップグレードが失敗した場合に以 前のログフォルダ構造に戻す .....	23
	インストールガイドとアップグレードガイドに記載された NetBackup の ネイティブインストールとアップグレードの情報が正しくない .....	23
	ネイティブインストールの要件 .....	24
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある .....	24
	HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて .....	25
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項 .....	25
	データベースコマンドの変更点 .....	25
	PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される .....	26
	DR の後、Veritas Alta Recovery Vault ボリュームを使用したジョブ が失敗することがある .....	26
	Linux NetBackup サーバー上の複数の postgres プロセス .....	26
	一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベース のサイズの削減 .....	27
	NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項 .....	27
	[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する .....	27
	資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブ の処理を利用できない .....	27
	NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する .....	28
	Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、 NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する .....	29
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項 .....	29
	PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される .....	29
	Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動 的に起動しないことがある .....	30

BMR の直接 P2V VM 変換タスクが状態コード 7 で失敗する .....	30
NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint) .....	31
NAS データ保護ポリシーのスナップショットからのバックアップジョブが エラー 927 で失敗する .....	31
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項 .....	31
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある .....	32
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項 .....	32
CentOS リポジトリミラー URL の更新 .....	32
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする .....	32
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない .....	32
NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサー バーがトークンを再発行しない .....	33
スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに 成功メッセージが表示される .....	33
NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない .....	33
リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマット できない .....	34
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される .....	34
新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構 成に失敗する .....	34
NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同 期されない .....	34
ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアッ プされる .....	35
再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない .....	35
CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更さ れる .....	35
NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得でき ない .....	35
多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscriptable」で失敗する .....	35
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可 されない .....	36
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項 .....	36
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート .....	36
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする .....	37

付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について .....	38
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について .....	38
付録 B	NetBackup のインストール要件 .....	40
	NetBackup のインストール要件について .....	40
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新 .....	41
	NetBackup 10.2 のバイナリサイズ .....	42
付録 C	NetBackup の互換性の要件 .....	45
	NetBackup のバージョン間の互換性について .....	45
	NetBackup の互換性リストと情報について .....	46
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて .....	46
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル .....	48
	NetBackup の関連マニュアルについて .....	48

# NetBackup 10.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.2 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

## NetBackup 10.2 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

### EEB およびリリース内容について

NetBackup 10.2 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 10.2 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.38 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

### NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の



最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

## NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/15143.html](https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html)

## NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

# 新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 10.2 の新機能、変更点、拡張機能](#)

## NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

---

**メモ:** 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

p.8 の「[NetBackup 10.2 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.46 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 10.2 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 10.2 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

## 新機能

- 「Veritas 用語の変更点」
- 「NetBackup Web UI の改善点」
- 「新しい EEB 管理ビュー」
- 「Veritas Alta Recovery Vault Azure および Azure Government の構成」
- 「NetBackup 10.2 の RESTful API」

## 安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

---

- **メモ:** NetBackup 10.2 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

---

## サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.2 のサポートの追加および変更点」
- 「BMR (Bare Metal Restore) オペレーティングシステムのサポートの追加」
- 「古い認証モデルのサポート終了」
- 「正確なライセンスのサポート」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

## インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.2 の新しい NetBackup Scale-Out Relational Database」
- 「NetBackup 10.2 にアップグレードするための前提条件」
- 「Linux 環境では、root ユーザーが NetBackup デモンを起動するときに新しい root 以外のデータベースユーザーが必要」
- 「ポート 13787 の新しい接続プール」

## クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.2 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」

## 仮想化の変更点と拡張機能

- 「保存されたクレデンシャルを使用した (ユーザー名またはパスワードへのアクセス不要) VMware ゲスト VM バックアップからの単一ファイルリカバリに対する Web UI のサポート」
- 「デフォルトの VMware 管理者の役割に追加されたクレデンシャル権限」

## 作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「複数のユニバーサル共有での Oracle Copilot のサポート」

## その他の通知事項

- 「Snapshot Manager での Azure リカバリポイントの使用」
- 「スナップショットバックアップからの単一ファイルリストア」
- 「弾力性に優れたメディアサーバーが提供するレプリカの自動スケーリング」
- 「マニュアルの変更」

## Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

---

**メモ:** Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

---

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

## NetBackup Web UI の改善点

このリリースは、NetBackup Web UI の次の機能強化を含んでいます。

- 手動バックアップに複数のポリシーを選択する機能。

- メディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージサーバーを作成するときにストレージの場所を参照する機能。
- アクティビティモニターから NetBackup デーモンを起動および停止する機能。

## 新しい EEB 管理ビュー

NetBackup 10.2 では、[配備の管理 (Deployment management)] の [EEB 管理 (EEB management)] タブが新しく追加されました。このタブには、環境で NetBackup EEB (Emergency Engineering Binary) を使用するためのウィンドウが表示されます。

[EEB 管理 (EEB management)] タブには、NetBackup 環境内に配備されたすべての EEB が表示されます。各 EEB には、問題の説明と、問題が解決された正式な NetBackup リリースが一覧表示されます。レビューと分析のために、これらすべての情報を CSV ファイルにエクスポートできます。

説明と修正されたバージョンの情報を表示するには、NetBackup Web UI を実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできる必要があります。この情報は、NetBackup SORT Web サイトの最新データから収集されます。

個々の EEB を確認し、特定の EEB を使用するホストを判断できます。説明の情報と同様に、これらの詳細を CSV ファイルにエクスポートできます。

現在、このビューはレポートのみが行えます。ただし、提供された情報を使用して、自分の環境に合わせたアップグレード戦略を策定できます。8.0 以前のクライアントとメディアサーバーでは、この機能を使用できないことに注意してください。

## Veritas Alta Recovery Vault Azure および Azure Government の構成

Veritas Alta Recovery Vault Azure および Azure Government は、Web UI または CLI を使用して構成できます。また、`csconfig cldinstance`、`nbcldutil`、`msdpclutil` は、Veritas Alta Recovery Vault Azure および Azure Government 向けに更新されています。

『NetBackup 重複排除ガイド』の次のセクションを参照してください。

- NetBackup Alta Recovery Vault Azure および Azure Government の構成
- CLI を使用した NetBackup Alta Recovery Vault Azure および Azure Government の構成

## NetBackup 10.2 の RESTful API

NetBackup 10.2 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

## API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:  
NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。  
[\[ホーム \(HOME\)\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 10.2](#)  
[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#)の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。
- プライマリサーバーの場合:  
API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。  
`https://<primary_server>/api-docs/index.html`  
API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

---

**注意:** Veritas は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

---

## 新しい API

NetBackup 10.2 には、次の機能強化された API が新たに導入されました。

- ドライブ:  
ドライブのリストを取得します。
- イメージ:  
raw パーティションの対象となるイメージのコンテンツを取得します。
- ジョブ: 指定した元のジョブを再開した後、新しいジョブのジョブ ID を取得します。
- NAS 作業負荷:  
NAS システムからファイルやフォルダを個別にリカバリします。
- FlashBackup Windows 作業負荷:
  - FlashBackup バックアップからファイルやフォルダを個別にリカバリします。
  - FlashBackup Windows バックアップからファイルやフォルダを個別にリカバリします。
- ログレコード:

- 指定したレコード ID のホストとそのコンポーネントのログレベルの値を取得します。
- 指定したレコード ID のホストとそのコンポーネントにログレベル設定を更新します。
- 外部クレデンシャル管理システムプロバイダ:
  - 外部クレデンシャル管理システム (ECMS) プロバイダのリストを取得します。
  - 外部クレデンシャル管理システムプロバイダを追加します。
  - 指定した構成名の ECMS プロバイダの詳細を取得します。
  - 指定した構成名の ECMS プロバイダを更新します。
  - 指定した構成名の ECMS プロバイダを削除します。
- 外部クレデンシャル管理システムエージェント:
  - 外部クレデンシャル管理システム (ECMS) エージェントのリストを取得します。
  - 外部クレデンシャル管理システムエージェントを追加します。
  - 指定したエージェント ID の ECMS エージェントの詳細を取得します。
  - 指定したエージェント ID の ECMS エージェントを更新します。
  - 指定したエージェント ID の ECMS エージェントを削除します。

## バージョン化された API

NetBackup 10.2 にはバージョン化された API はありません。

## NetBackup 10.2 のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

---

NetBackup 10.2 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- プライマリサーバーおよびメディアサーバーとしての Red Hat Enterprise Linux Server 9.0
- プライマリサーバーおよびメディアサーバーとしての Oracle Linux 9.0
- Azure Stack Hub 2206
- Red Hat Enterprise Linux 9.0 の MariaDB 10

- 
- **メモ:** AWS RDS SQL の PaaS データベース保護のサポートは、NetBackup 10.1.1 から開始されました。詳しくは、『NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド』を参照してください。
- 

## BMR (Bare Metal Restore) オペレーティングシステムのサポートの追加

NetBackup BMR (Bare Metal Restore) は次のオペレーティングシステムバージョンをサポートするようになりました。

- BMR クライアント/ブートの RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 9 のサポート

## 古い認証モデルのサポート終了

- 拡張監査 (EA)  
Veritas は、今後のバージョンの NetBackup で、EA (拡張監査) 認証モデルはサポートされなくなることを通知します。
- NetBackup アクセス制御 (NBAC)  
また、Veritas は、NetBackup アクセス制御 (NBAC) の認証モデルが EOL (ライフサイクル終了) に達し、今後のリリースでサポートされなくなることを通知します。

サポートは、NetBackup の古いバージョンでは継続し、公開されている [Veritas 製品ライフサイクル終了](#) ポリシーのガイドラインに従います。

## 正確なライセンスのサポート

次の作業負荷は、NetBackup 10.2 で正確なライセンスをサポートします。

- NetBackup for Hyper-V
- NetBackup for FlashBackup
- NetBackup for Lotus Notes
- NetBackup for Microsoft SharePoint
- NetBackup for Enterprise Vault
- NetBackup for Sybase
- NetBackup for Informix
- NetBackup for DB2
- NetBackup for SAP HANA
- NetBackup for SAP MaxDB



- NetBackup for SAP Oracle

## 将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill\_all
- bpdwn
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

## NetBackup 10.2 の新しい NetBackup Scale-Out Relational Database

NetBackup 10.2 では、データベース技術は新しいデータベースソリューションに変更されています。

アップグレード中に、既存の NetBackup リレーショナルデータベースが新しいデータベースソリューションに自動的に移行されます。前提条件については、「[NetBackup 10.2 にアップグレードするための前提条件](#)」を参照してください。詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

## NetBackup 10.2 にアップグレードするための前提条件

内部テストでは、アップグレードプロセスにかかる時間が以前のリリースよりも短くなる可能性があることが示されています。ただし、アップグレードプロセス中にデータベース変換の時間を延長できるように準備してください。データベース変換に関する詳細と推定時間について詳しくは、『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 10.2 へのアップグレードの一環として、次の前提条件があります。

- Veritas では、アップグレードの前に `nbdb_admin -validate` コマンドを実行し、報告された問題を解決することを強くお勧めします。
- Veritas は、NetBackup をアップグレードする前に、データベース事前チェックツールを実行して潜在的なデータの問題を特定することをお勧めします。事前チェックツールの使用方法については、<https://sort.veritas.com/utility/nbdb-utf8-check> を参照してください。

データベース事前チェックツールで最適なパフォーマンスを得るには、`nbdb_unload` ユーティリティの EEB Hotfix をインストールします。次の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/downloads/update.UPD714038](https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD714038)

- Veritas では、クラスタ化されたプライマリサーバーのアクティブノードが正常にアップグレードされた後、`pgsql_utf8_error.txt` ファイルを検索することをお勧めします。クラスタサーバーでは、無効な UTF-8 文字の通知は表示されません。このファイルの場所について詳しくは、次の技術情報のソリューションに関するセクションを参照してください: [https://www.veritas.com/support/en\\_US/article.100055347](https://www.veritas.com/support/en_US/article.100055347)
- Veritas では、アップグレード前に NetBackup データベースのデフラグを行い、全体的な変換エクスペリエンスを向上させることをお勧めします。データベースをデフラグするための [再編成 (Reorganize)] オプションについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- アップグレードの 24 時間以内にカタログバックアップを実行する必要があります。
- NetBackup データベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。  
このガイドの付録「NetBackup のインストール要件」も参照してください。

## Linux 環境では、root ユーザーが NetBackup デーモンを起動するときに新しい root 以外のデータベースユーザーが必要

Linux 環境の場合、新しい NetBackup データベースの操作には root 以外のユーザーが必要です。root ユーザーが NetBackup デーモンを起動すると、root 以外のユーザーを求めるメッセージが表示されます。『NetBackup アップグレードガイド』の「NetBackup 10.2 へのアップグレードの計画方法」セクションの「データベースユーザー、ポート、ディスク容量の要件」を参照してください。また、次の記事も参照してください:  
<https://www.veritas.com/docs/100053091>。

## ポート 13787 の新しい接続プール

NetBackup 10.2 では、新しい NetBackup Scale-Out Relational Database に新しい接続プールが導入されました。デフォルトでは、ポート 13787 が使用されます。詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』の「データベースユーザー、ポート、ディスク容量の要件」セクションを参照してください。

## NetBackup 10.2 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 10.2 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 10.2 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritasは次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.10.0 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合のみ必要です。

バージョン 2.10.6 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 10.2 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- Amazon Glacier Instant Retrieval (IR)
- Backblaze B2 Cloud Storage (S3)
- DataCore Swarm (S3)
- iTernity iCAS FS (S3)
- Quantum ActiveScale Glacier ストレージクラス
- Spectra Vail (S3)
- STACKIT オブジェクトストレージ (S3)
- NEC Cloud IaaS オブジェクトストレージ N2 (S3)
- Amazon (S3) - Asia Pacific (Jakarta) 地域
- Amazon (S3) - ME (UAE) 地域
- Google (S3) - Asia South2 (Delhi) 地域
- Google (S3) - Australia-Southeast2 (Melbourne) 地域
- Google (S3) - EU West8 (Milan) 地域
- Google (S3) - EU West9 (Paris) 地域
- Google (S3) - EU Southwest1 (Madrid) 地域
- Google (S3) - North America Northeast2 (Toronto) 地域
- Google (S3) - US East5 (Columbus) 地域
- Google (S3) - US South1 (Dallas) 地域
- Wasabi (S3) - AP Southeast 1 (Singapore) 地域
- Wasabi (S3) - AP Southeast 2 (Sydney) 地域
- Wasabi (S3) - EU Central 2 (Frankfurt) 地域
- Wasabi (S3) - CA Central 1 (Toronto) 地域
- Wasabi (S3) - EU West 2 (Paris) 地域

最新のクラウド構成パッケージについては、次の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/downloads/update.UPD971796](https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796)

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

## 保存されたクレデンシアルを使用した (ユーザー名またはパスワードへのアクセス不要) VMware ゲスト VM バックアップからの単一ファイルリカバリに対する Web UI のサポート

このリリースでは、VMware ゲスト VM クレデンシアルを使用して、ターゲットのゲスト VM にエージェントレス単一ファイルリカバリを実行するためのサポートが追加されました。ユーザーは、VM の実際のユーザー名とパスワードを知らなくてもリカバリを実行できます。

管理者 (または類似の RBAC の役割を持つユーザー) は、NetBackup クレデンシアル管理でクレデンシアルを作成します。デフォルトの VMware 管理者の RBAC の役割には、このクレデンシアル (および任意のクレデンシアル) を表示および使用する権限があります。または、NetBackup 管理者は、VMware 管理者に特定のクレデンシアルのみへのアクセス権を付与するカスタムの RBAC の役割を作成できます。

## デフォルトの VMware 管理者の役割に追加されたクレデンシアル権限

このリリースでは、RBAC のデフォルトの VMware 管理者の役割に、クレデンシアル用の新しい権限が追加されました。この役割を持つユーザーは、[表示 (View)] と [クレデンシアルの割り当て (Assign credentials)] ができるようになりました。これらの変更は、ユーザーがクレデンシアル管理ですべてのクレデンシアルを表示し、リカバリに任意のクレデンシアルを使用できることを意味します。

ユーザーにすべてのクレデンシアルへのアクセス権を付与しない場合は、カスタムの役割を作成し、その役割に必要なクレデンシアルのみを選択します。

## 複数のユニバーサル共有での Oracle Copilot のサポート

NetBackup 10.2 は、BYO サーバーからの複数のユニバーサル共有を使用する Oracle Copilot をサポートします。

## Snapshot Manager での Azure リカバリポイントの使用

NetBackup 10.2 には、NetBackup Snapshot Manager での Azure リカバリポイントの使用について次の変更があります。

- Azure リカバリポイントを使用したアプリケーション整合性  
デフォルトでは、Snapshot Manager のスナップショット作成操作では、スナップショットの代わりにリカバリポイントが作成されます。
- Azure リカバリポイントを使用したアプリケーション整合性のアップグレード後のタスク

Azure リカバリポイントを使用するようにアップグレードしたら、スナップショットをアプリケーション整合にするために、Azure リストアポイントを有効にするように追加の権限が構成されていることを確認します。

詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager インストールおよびアップグレードガイド』の「アップグレード後のタスク」セクションを参照してください。

## スナップショットバックアップからの単一ファイルリストア

このリリースで、スナップショットのバックアップを作成し、同時に個々のファイルとフォルダを検索してリストアできます。この機能は、NetBackup と Snapshot Manager のクロスプラットフォームリストアもサポートします。詳しくは、『NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド』を参照してください。

## 弾力性に優れたメディアサーバーが提供するレプリカの自動スケーリング

メディアサーバーのすべてのレプリカは常に稼働しており、これにより不要なコストが発生します。基本的なメディアサーバーポッド電源管理 (弾力性に優れたメディアサーバー) 機能を使用すると、CPU とメモリの使用状況に基づいてメディアサーバーレプリカを自動スケーリングしてコストを削減できます。この機能はデフォルトでは無効です。詳しくは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』を参照してください。

## マニュアルの変更

このリリースでは、『Azure Kubernetes Services (AKS) クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』と『Amazon Elastic Kubernetes Services (EKS) クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』は公開されなくなりました。これらのガイドは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』1 つに統合されました。

# 操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.2 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Manager \(以前の NetBackup CloudPoint\)](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

## NetBackup 10.2 の操作上の注意事項について

の操作上の注意事項は、のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性があるのさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。NetBackupNetBackupNetBackupVeritas操作上の注意事項は、NetBackupの各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupVeritas

NetBackup のリリースノート、管理者ガイド、インストールガイド、トラブルシューティングガイド、スタートガイド、ソリューションガイド

## NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 10.2 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### Windows で NetBackup 10.2 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『Veritas NetBackup ログリファレンスガイド』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 10.2 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド』の mklogdir コマンドを参照してください。

### インストールガイドとアップグレードガイドに記載された NetBackup のネイティブインストールとアップグレードの情報が正しくない

『NetBackup インストールガイド』と『NetBackup アップグレードガイド』の 10.2 バージョンには、次の変更は含まれていません: NetBackup 10.2 以降、Red Hat Linux のプライマリサーバーとメディアサーバーには rpm VRTSpddeu.rpm が必要です。また、これらのガイドには、rpm パッケージ VRTSpddea.rpm と VRTSpddes.rpm のインストール順序が正しく反映されていません。

マニュアルの修正は次の技術情報の記事で参照できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100055465](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100055465)

## ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

## NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 ( `_` ) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.000125019](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019)

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。



## HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、`swinstall` や `swremove` などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。`swinstall` と `swremove` ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

## NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 10.2 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### データベースコマンドの変更点

NetBackup 10.2 で NetBackup Scale-Out Relational Database に変更が加えられた結果、データベースコマンドの一部のオプションが変更または削除されました。

#### nbdb\_\* コマンドの変更

コマンド `nbdb_admin -start` および `nbdb_admin -stop` は、NetBackup データベースサーバーの特定のデータベースを開始および停止しなくなりました。NetBackup データベースサーバーを開始または停止するようになりました。Windows では、依存しているサービスも停止します。NetBackup データベースサーバーを再び起動する場合は、これらのサービスを手動で再起動する必要があります。

---

**メモ:** `-stop` オプションによって NetBackup データベースサーバーをオフラインにする前に、実行中のすべてのサービス (NetBackup Scale-Out Relational Database を除く) を停止します。

---

#### -staging オプションの削除

`-staging` オプションは、コマンド `cat_export`、`cat_import`、`nbdb_unload` から削除されました。

## PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE\_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外のアカウントで SERVICE\_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE\_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy か BMR ポリシー構成かにかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

## DR の後、Veritas Alta Recovery Vault ボリュームを使用したジョブが失敗することがある

NetBackup 10.2 に対してディザスタリカバリを実行した後、Veritas Alta Recovery Vault クレデンシャルの更新トークンが無効になる場合があります。この状況により、Veritas Alta Recovery Vault ボリュームを使用するジョブでエラーが発生する可能性があります。詳しくは、次の技術情報の記事を参照してください。

[https://veritas.com/en\\_US/article.100055366](https://veritas.com/en_US/article.100055366)

## Linux NetBackup サーバー上の複数の postgres プロセス

10.2 の新しい NetBackup データベースでは、NetBackup サーバーでいくつかの postgres インスタンスが実行されます。インスタンスの 1 つは、データベースクラスタを実行するプライマリサーバーのプロセスです。これは、最初に開始されるプロセスで、リカバリ操作を実行し、共有メモリを初期化し、バックグラウンドプロセスを実行します。

PostgreSQL は、クライアントプロセスからの接続要求がある場合、追加のプロセスも生成します。(詳しくは、PostgreSQL のマニュアル

<https://www.postgresql.org/docs/current/app-postgres.html> を参照してください。) 各バックグラウンドインスタンスは、特定の目的専用です。例: データベースの自動メンテナンス、エラーメッセージのログ記録、統計情報の更新と収集、データベースアクティビティを実行するさまざまなプログラムからのクライアント接続の処理。

## 一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減

NetBackup 9.1 へのアップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、特定の作業負荷に対する既存のジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。アップグレードの前にジョブデータベースのサイズを減らす必要があります。この処理により、関連付けを実行するために必要な処理の量が最小化され、Web サービスのパフォーマンスに与える影響が最小限に抑えられます。非常に大規模なジョブデータベースでは、ヒープ領域の高使用率に関連したアラートが表示される場合があります。

影響を受ける作業負荷には、クラウド、Nutanix AHV、RHV、VMware が含まれます。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100049808>

## NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 10.2 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.46 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

## [カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の [カタログ (Catalog)] 領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

## 資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブの処理を利用できない

NetBackup Web UI でジョブを表示および管理する場合は、次の問題に注意してください。

- ジョブは実行されるまで資産 ID を受信しません。つまり、キューへ投入済みのジョブには資産 ID が存在しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、キューへ投入済みのジョブを表示またはキャンセルできません。  
 この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。
- 資産がまだ検出されていない場合、ジョブは資産 ID を受信しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、その資産のジョブをキャンセルまたは再起動できません。  
 この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。

### 例 1 - 資産の権限が制限されている VMware 管理者は、キューに投入済みのジョブをキャンセルできない

VMware vCenter または 1 つ以上の VM に対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。

- このユーザーは、vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブを表示できません。
- 同様に、このユーザーは vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブをキャンセルできません。

### 例 2 - 資産の権限が制限されている VMware または RHV 管理者は、未検出の資産のジョブをキャンセルまたは再起動できない

VMware vCenter または RHV サーバーに対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。このユーザーには、これらの資産に対する 1 つ以上のジョブの権限がありますが、すべての作業負荷資産に対するジョブの権限はありません。

- 環境に新しい資産が追加されましたが、検出プロセスがまだ実行されていません。
- 既存のインテリジェントグループは、新しい資産を含めるように構成されます。
- バックアップが実行されると、バックアップに新しい資産が含まれます。
- このユーザーは、新しい資産に対するジョブをキャンセルまたは再起動できません。

## NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この

問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

## Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

[http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6901233](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233)

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

## NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 10.2 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE\_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外のアカウントで SERVICE\_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されま

す。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE\_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy か BMR ポリシー構成にかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

## Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている root ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

## BMR の直接 P2V VM 変換タスクが状態コード 7 で失敗する

BMR (Bare Metal Restore) の直接 P2V (物理から仮想) VM (仮想マシン) 変換タスクが状態コード 7 で失敗します。VM の作成後、BMR が VIC (仮想インスタンスコンバータ) VDDK マウント呼び出しにディスクをマウントしようとする時、この問題が発生します。

次の例は、bmr2vrst ログでエラーがどのように表示されるかを示しています。

```
0,51216,434,434,1225074,1669017201225,3136,3144,0:,211:MountManagerApi::AddMountPoint()  
-  
Error: Failed to create mountpoint:  
¥¥?¥Volume{7427BE07-4C03-4849-8B50-4BB2186EAFE0} for device:  
¥Device¥vstor2-mntapi20-shared-90B9CB470000100000000000001000000.  
Error code:  
87,42:CVmwareOffHostVmRestoreWorker.cpp:ubslog(),5  
0,51216,434,434,1225075,1669017201225,3136,3144,0:,188:SetupVirtVolumeAccess  
The device ¥Device¥vstor2-mntapi20-shared-90B9CB470000100000000000001000000 has no  
drive letter. Using the volume guid ¥¥?¥Volume{9d318822-6695-11ed-80b4-806e6f6e6963},  
42:CVmwareOffHostVmRestoreWorker.cpp:ubslog(),5
```

```
0,51216,434,434,1225076,1669017201242,3136,3144,0:,91:FormatEx was unable to complete  
successfully 126-The specified module could not be  
found.!!,  
42:CVmwareOffHostVmRestoreWorker.cpp:ubslog(),5
```

回避方法:

この問題は NetBackup 10.2 VIC (仮想インスタンスコンバータ) に固有であるため、NetBackup 10.1 VIC (仮想インスタンスコンバータ) を使用して NetBackup 10.2 バックアップの BMR 直接 VM 変換を実行できます。

## NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)

この項では、NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup with Veritas CloudPoint) および NetBackup 10.2 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NAS データ保護ポリシーのスナップショットからのバックアップジョブがエラー 927 で失敗する

NAS データ保護ポリシーのスナップショットからのバックアップジョブがエラー 927 で失敗します。この問題は、バックアップホストプールにメディアサーバーと同じか、それよりも古いバージョンの NetBackup ホストが含まれていない場合に発生します。

回避方法:

SLP (ストレージライフサイクルポリシー) で指定されたストレージユニットに関連付けられているすべてのメディアサーバーの NetBackup のバージョンが、バックアップホストプールのバックアップホストの最低バージョンより高いバージョンであることを確認します。

メディアサーバーを除外するには、SLP で指定された STU のストレージユニットのプロパティに移動します。[次のメディアサーバーのみを使用 (Only use the following media servers)] オプションを選択します。次に、バックアップホストプール内のホストの中で最も低い NetBackup バージョンより上位または同じ NetBackup バージョンのメディアサーバーを選択します。

## NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup10.2 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 10.2 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### CentOS リポジトリミラー URL の更新

CentOS リポジトリミラー URL は、`mirror.centos.org` から `vault.centos.org` に更新されました。`/etc/yum.repos.d/CentOS-*` にあるすべての Yum リポジトリファイルで更新する必要があります。

### haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMPAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMPAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMPAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100052551](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551)

### 増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされますが、これらのディスクはマウントできません。



## NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサーバーがトークンを再発行しない

NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup コンフィギュレータにおける NetBackup 証明書のトークンの再発行が機能しません。

回避方法:

この問題を解決するには、プライマリサーバーでトークンの自動再発行の許可を有効にします。NetBackup コンフィギュレータの[トークン (Token)]フィールドに "" と入力する必要があります。この構成では、プライマリサーバーが提供した証明書が NetBackup for OpenStack VM にすでに存在する場合は続行できます。

## スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

スナップショットがあるポリシーを削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただしポリシーは削除されないため、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- Error: Invalid state: This policy contains snapshots. Please delete all snapshots and try again.
- Success: Deleted: <policy name>

## NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない

NetBackup VM の構成中に NetBackup プライマリサーバー名を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to establish connection with the NetBackup master server.
Error: HTTPSConnectionPool(host='NBU.master.server', port=443): Max
retries exceeded with url: /netbackup/security/ping (Caused by
NewConnectionError('<urllib3.connection.HTTPSConnection object at
0x7f9e466b0ef0>: Failed to establish a new connection: [Errno -2]
Name or service not known',))
```

回避方法:

この問題を解決するには、`/etc/hosts` に IP ホスト名マッピングを追加します。

詳しくは、次のサポート記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/article.100045941](https://www.veritas.com/support/en_US/article.100045941)

## リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない

Ceph に格納されている VM ボリュームは、必要に応じてバックアップから正常に除外されます。

リストアによって空の Ceph ボリュームが作成されますが、このボリュームは接続またはフォーマットできません。

## リストアされた VM に空のメタデータ config\_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config\_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config\_drive を削除するか、必要な値を設定します。

## 新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する

既存の NetBackup VM にノードを追加するとき、NetBackup の再構成に失敗します。

理由は、以前の MySQL パスワードが機能しておらず、MySQL のルートアクセスがリセットされたためです。

回避方法:

構成済みの NetBackup VM の /root/.my.cnf ファイルを削除し、再構成します。

## NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない

NetBackup の再構成後に、既存の NetBackup VM クラスタにさらに 2 つのノードを追加した場合（「インポートポリシー」が未選択）、データベースは既存の NetBackup VM と同期されません。

2 つの新しいノードを追加する間、node1 のデータベースが 2 つの新しいノードと同期され、新しい 3 ノードの NetBackup VM クラスタで再構成後に既存のポリシーを利用できることが期待されます。

回避方法:

CLI からポリシーのインポートを実行します。

## ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる

VM のメタデータ `exclude_boot_disk_from_backup` は `true` に設定されていましたが、リストアされたインスタンスは、データがバックアップおよびリストアされたことを示していません。

## 再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない

再初期化では、OpenStack との通信に使用されるアップロード済みの OpenStack 証明書は保持されません。

回避方法:

証明書を再度アップロードします。

## CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される

CLI でインポート機能を使用すると、スケジューラの信頼が有効から無効に変更されません。

回避方法:

再初期化後に、UI からインポートオプションを使用して NetBackup を構成します。

## NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない

NetBackup Appliance を再初期化した後、UI と CLI にノードの情報が表示されません。

回避方法:

NetBackup ノードで `nbosjm-policies` および `nbosjm-cron` サービスを再起動します。

```
systemctl restart nbosjm-policies
```

```
systemctl restart nbosjm-cron
```

## 多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する

25 を超えるポリシーを同時に実行すると、エラーが発生します。nbosdmapi サービスが応答しません。

スナップショットは `Object is not subscribable`. エラーで失敗します。

回避方法:

既知の回避方法を実行するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

## SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアップジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を `/etc/nbosjm/ca-chain.pem` に含めます。

## NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 10.2 の国際化、日本語化、および英語以外のローケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:  
データファイルパス、テーブルスペース名、TNS パス
- DB2:  
データファイルパス、テーブルスペース名
- SAP:  
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:  
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:  
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:  
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:

ボルトストア、パーティション、データ

- **VMware:**  
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## 特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

## Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート  
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定  
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 10.2 のバイナリサイズ](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.23 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 10.2 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、`/usr/openv/db/data (UNIX)` または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows)` のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空



き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、パイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

## NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 10.2 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、Veritas SORT (Services and Operational Readiness Tools) Web サイトおよび NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストで確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.46 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

p.38 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

## NetBackup 10.2 のバイナリサイズ

表 B-1 に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 10.2 プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサイズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

---

**メモ:** NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

---



---

**メモ:** は、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトまたはは参照してください。

---

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER	1659 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64	1602 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
CentOS	x86-64	1602 MB	10780 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	1602 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		1570		
NeoKylin Linux Advanced Server		1671		
Oracle Linux	x86-64	1602 MB	10780 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER	328 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1570 MB	10466 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	889 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		1602 MB		
Solaris	SPARC	1333 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1327 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER	329 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1202 MB	6645 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	904 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	557 MB	4720 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表 B-1 にリストされている合計バイナリサイズの 40～50% になります。

- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-1](#)にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序をプライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.38 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

---

**メモ:** 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

#### ■ 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

## SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 ( Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.38 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 10.2 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 10.2 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

---

**メモ:** Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

---